



日本の工業の実態を地帯・地域ごとの特徴から見てみましょう。

挑戦!

横浜市立横浜サイエンスフロンティア  
高校附属中 2018年度 適性検査Ⅰから  
抜粋 (一部改変)

たろうさんとのはなこさんは、調べ学習で日本の工業について調べることになりました。【会話1】を読み、あとの問題に答えなさい。

【会話1】

はなこさん：私は日本の工業について調べるために図書室に行きました。そこで、【資料1】と【資料2】をみつけたので、見てください。私は日本の工業は発展し続けていると思っていたので、これらの資料を見たときに驚きました。

たろうさん：何に驚いたのですか。

はなこさん：【資料1】を見てください。（あ）ということがわかりますね。次に、私たちの学校の近くにある京浜工業地帯に注目して【資料1】と【資料2】を見てみようと思います。【資料2】を見ると京浜工業地帯で最も盛んな工業は、機械ですね。

たろうさん：はい。

はなこさん：しかし、京浜工業地帯の機械の製造品出荷額は、中京工業地帯の機械の製造品出荷額の約3分の1しかないのです。

たろうさん：なぜ、約3分の1とわかったのですか。京浜工業地帯の機械の製造品出荷額と中京工業地帯の機械の製造品出荷額は、どこにも書いてありません。どのようにしてそれぞれの工業地帯の機械の製造品出荷額を出して、さらに約3分の1を導き出したのですか。

はなこさん：それは、【資料1】の2014年の製造品出荷額と【資料2】を見て、（い）。

たろうさん：なるほど。そのようにして導き出したのですね。中京工業地帯に比べると京浜工業地帯の機械の製造品出荷額は少なく感じますね。それでは、京浜工業地帯では、食料品や繊維などの軽工業はどうでしょうか。

はなこさん：【資料2】から、京浜工業地帯の中で軽工業は全体の24.4%を占めていることがわかります。また、【資料1】と【資料2】から、京浜工業地帯の軽工業の製造品出荷額は、【資料1】にある工業地帯や工業地域の中で

資料問題編⑨

日本の工業の内訳を見てみると

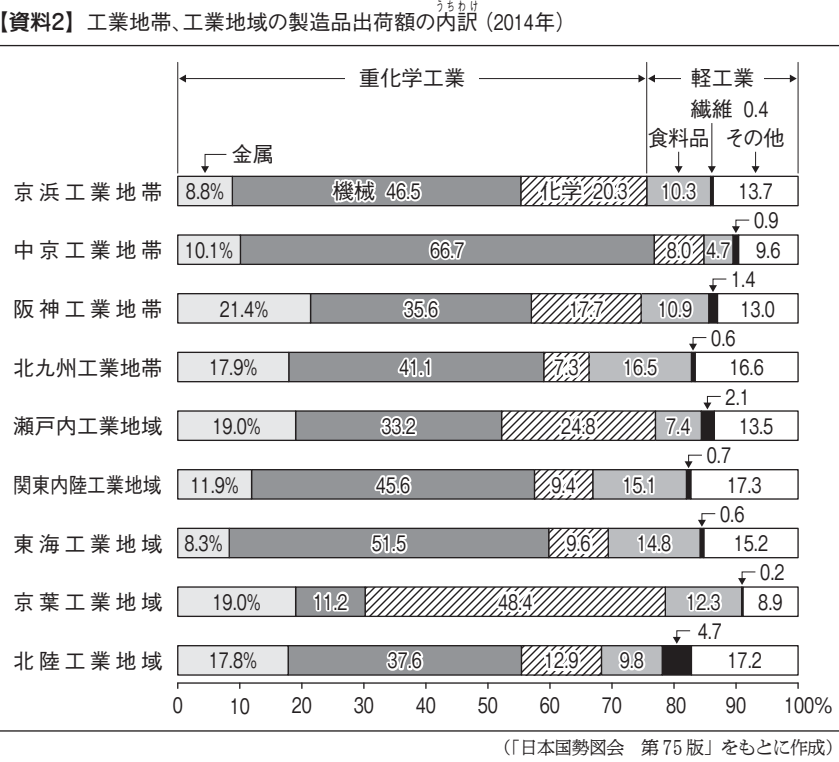
（う）番目に多いことがわかります。

たろうさん：資料を正確に読みとると、いろいろなことに気づきますね。

【資料1】工業地帯、工業地域の製造品出荷額の移り変わり（単位 億円）

|          | 1990年  | 2000年  | 2010年  | 2013年  | 2014年  |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 京浜工業地帯   | 516000 | 403000 | 258000 | 254000 | 262000 |
| 中京工業地帯   | 445000 | 427000 | 481000 | 526000 | 546000 |
| 阪神工業地帯   | 406000 | 326000 | 301000 | 303000 | 317000 |
| 北九州工業地帯  | 78000  | 74000  | 82000  | 82000  | 85000  |
| 瀬戸内工業地域  | 267000 | 242000 | 293000 | 295000 | 310000 |
| 関東内陸工業地域 | 336000 | 305000 | 290000 | 279000 | 293000 |
| 東海工業地域   | 165000 | 168000 | 159000 | 158000 | 161000 |
| 京葉工業地域   | 123000 | 115000 | 124000 | 131000 | 139000 |
| 北陸工業地域   | 132000 | 128000 | 118000 | 121000 | 128000 |

（『日本国勢図会 第75版』をもとに作成）



問題

【会話1】の内容や【資料1】【資料2】を参考にして、次の（1）～（3）の問題に答えなさい。

- （1）【会話1】中の（あ）にあてはまるものとして、最も適切なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。
- 2014年において関東地方にある工業地帯や工業地域の中で製造品出荷額が最も多いのは、京浜工業地帯である
  - 1990年から2014年まで、製造品出荷額が増加し続けている工業地帯や工業地域は、一つもない
  - 全ての工業地帯と工業地域の製造品出荷額を年ごとに合計すると、1990年から2014年まで、その合計額は減少し続けている
  - 1990年と2014年を比べると、製造品出荷額が増加している工業地帯や工業地域は三つだけで、それ以外は減少している
- （2）【会話1】中の（い）にあてはまることばを次の「条件」にしたがって書きなさい。
- 【条件】
- 直前のたろうさんの質問に答えるように計算のしかたを具体的に説

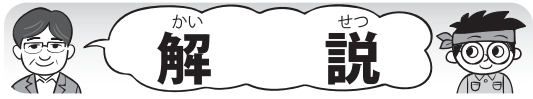
明すること。

○前後の会話につながるように書くこと。

（3）【会話1】中の（う）にあてはまる数字を答えなさい。



解説・解答を見ないで、まず自分で分析してみよう！



問題

（1）【資料1】を見てわかることと言っても、どこに着目していけばいいのか漠然としていますので、1～4の選択肢の一つひとつ見ていくしかありません。1. 関東地方にある「地帯」「地域」は3つになりますね。2. スタートの1990年と2000年の出荷額を比べることでほぼ見当がつきますね。3. たし算をしなくても、2013年と2014年を全ての「地帯」と「地域」で見比べればすぐに気がつきますね。問いに「年ごとに合計すると」とあると、つい各年の9つの出荷額をたし算しなくてはと考えがちですが、このような計算をさせるということは解答時間との関わりからして常識的ではありません。そこで、なんらかのやり方を工夫したり、着眼点を見つけることで素早くできる方法がありますので、要領よく取り組みましょう。4. あせらず落ちついて一つひとつ取り組みれば誤りに気がつきますね。

（2）【資料2】のような帯グラフは、全体の中で複数の項目がどのような割合（％）を占めるのかといった内訳を表すときに利用され、他の「地帯」「地域」とその内訳がどのように違うのかを比べていくには便利なグラフです。しかし、それはあくまでその「地帯」「地域」における割合であって、実際の数量（金額・重量など）を表すものではありません。実際の数量は、それぞれの「地帯」「地域」の総量に各項目の割合（％）をかけ合わせて求めていきます。ですから、2つの「地帯」「地域」を比べて、一つの方がある項目の割合が高くても、その総量が少ないときには、その項目の実際の数量はもう一方より少なくなることがありますね。

（3）軽工業の割合は、たし算をしてすべての「地帯」「地域」で出さないといけませんが、その後は、（2）の考え方から、その割合と各「地帯」「地域」の総額の2つのバランスを見て、見当をつけていくことで要領よくやれますね。



問題

（1）2

（2）中京工業地帯と京浜工業地帯のそれぞれの製造品出荷額にそれぞれの工業地帯の機械のわり合をかけて工業地帯ごとの機械の製造品出荷額をだし、京浜工業地帯の機械の製造品出荷額を中京工業地帯の機械の製造品出荷額でわりました。

（3）5